

## 利根川中流域の水田等で繁殖するタマシギ分布調査計画

タマシギ探し隊代表 明日香治彦



### 調査目的

茨城県内利根川中流域の水田や蓮田では、タマシギの繁殖例が度々観察されていたが、最近、国の農政が変更になって、休耕田制度が無くなってきており、冠水した休耕田を利用してきたタマシギの繁殖にとっては厳しい環境となった。現在タマシギは環境省の区分では絶滅危惧種 II 類となっているが目撃例が少なくなっている。

特に平成 23 年頃から当地でも観察報告例が少なくなってきたおり、早急に繁殖実態の把握が必要であることを痛感した。

そこで平成 26 年度より繁殖期間の 5 月から 9 月までの間に、どれだけのタマシギが繁殖したか、雛の個体数や 1 羽の雌の個体に何羽の雄が接触するかなど、夜間の雌雄の行動調査を含めてしっかりと実態を調べておく必要があると思ってこの計画を立案した。

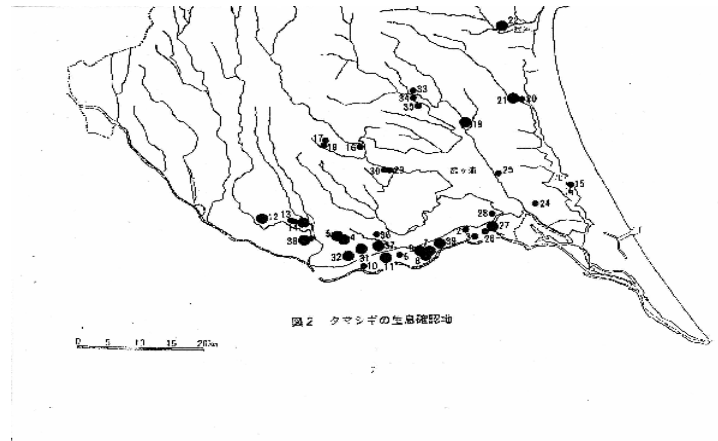
### 調査方法

1. 調査地域が広範囲にわたるため従来同様車を使用して、シギチドリが降りている場所を探すのと同様の方法でゆっくり畦道を通って探す。
2. タマシギの繁殖期は 5 月ごろから 9 月までの長い繁殖期間であるので、その間 5.6 月は水田を中心に、稲が伸びて観察が難しくなったら 8.9 月蓮田なども調査する。
3. タマシギの個体が発見されればそこを中心に継続的に観察し、また夜間調査によるレック状態を観察することによって、雌 1 羽に対してオスが何羽いるか等を確認する。継続観察することによってその地域の雌を中心としてどのような社会が形成されているのかを推測する。また雛の平均数をも記録する

### 調査区域

調査地 1. 竜ヶ崎市、取手市、河内町、稲敷市の利根川流域を考えている、しかも明治時代の古い利根川の湾曲した部分で古地図上、沼や湿地帯になっていて、現在は水田や蓮田になっている所を集中的に調査する。特にこの地域はシギチドリのフライウェイにあたって日本野鳥の会茨城県や地元の野鳥同好会また個人的にもしっかり継続的に観察しているが、タマシギに関してある程把握しているものの、継続的または集中的に調査した例はない。

参考に日本野鳥の会茨城県で調査した平成 17 年度の利根川中流域の繁殖確認地を添付する。次頁図は茨城県内で生息が確認された場所の位置であるが、これを見ても判るように殆ど利根川中流域に集中している。よって本調査も上記市町村を中心に区域を限定し、密な調査体制が取れるように配慮してある。現在予定している調査員は 3 名でこの地域のシギチドリのことを精通している調査員を配属する予定である。



#### 1) 5・6月の調査方法

5月6月では休耕田や稲がまだ伸び切っていない状態なので、観察者はその場所の正確な位置を把握し、夜間観察をして雌雄の比率等を調査する。また雌の移動はあまりないと思われるので、雄の抱卵との関係を調べる。

#### 2) 7・8月の調査方法

特に稲が伸びている時期なので、難しい時期ではあるが、大麦等の収穫後に植えた収穫時期の遅い水田は観察の公的な場所でもあるので、そこを中心に探査する

#### 3) 9月の調査方法

水田は稲の刈り入れが終わるので、殆どが蓮田で観察するしか方法はないが、毎年観察できているので蓮田中心に観察する。

資料のまとめとしては 利根川中流域での繁殖分布図を製作し、そこで雌を中心にどれだけの雄がレックを作っているかを調べ、何羽の雛が育つか平均的繁殖数を調べる。



#### 4) 予算関係

調査費全体で 20 万円を予定している。夜間用の照明器具などを購入する予定ですが、ただし予算が潤沢に提供されれば、千葉県側の手賀沼および印旛沼周辺の利根川右岸のタマシギの繁殖状況まで調べられれば貴重な資料となる。千葉県側の調査員もベテランの調査員を確保する。

以上